

もう増やさないって決めたのに

教育研修部

中西 淳美

NAKANISHI ATSUMI

生き生きとした緑の植物が、私は大好きだ。眺めているだけでエネルギーが湧いてくる。自宅でも様々な観葉植物を育てているが、改めて数えてみるとその数は25鉢。いつの間にかこんなにも増えていた。

観葉植物との暮らしは、日常に小さな潤いを与えてくれる。朝起きて水やりをする時間は、まるで植物と会話しているようで楽しい。弱りかけた鉢も世話を続けていると、小さな芽を出して復活することがある。その健気な姿に癒され、また頑張ろうという気持ちになる。

今年の猛暑でバテ気味だった私をよそに、熱帯生まれでお気に入りの斑入りモンステラは絶好調であった。この一年ほど成長も枯れもせず変化がなかったのだが、今夏は新芽を二枚も出した。喜びを感じる一方で、その元気な成長が気候変動と無関係ではないかもしれないと思うと、少し複雑な気持ちにもなる。熱帯の植物が伸び

伸びとする裏で、人間の生活はじわじわと追い込まれているのかもしれない。

もっと自然が増えてほしいと願いつつも、都市部の暮らしを手放すこともできない。せめて部屋の中の小さな森を大切にすることが、地球の森を守る一歩につながると信じて。そう思いながら——また新しい植物をもうひと鉢、迎えてしまいそうだ。



編集後記

巻頭の事業報告は、2027年4月から処分業者の電子manifesto入力項目が追加されるにあたり、処分業者の方が円滑にご対応いただけるよう、『処分業者向け項目追加説明会』を全国で開催していることを案内しています。12月以降の追加の開催日程はホームページにて掲載しています。

「調査報告」では、使用済み太陽光パネルのリサイクル取組状況調査の結果を報告しています。環境省は、検討を進めていたりサイクルの義務づけについて、費用を誰に負担させるのか制度設計の枠組みが定まらないとして見直しを検討するとしています。現状では、費用負担の他に、回収量不足のため事業化が難しい、リサイクルコスト増、再資源化物の品質の点など、様々な課題が挙げられています。

「コラム」では、ミダックグループは太陽光パネルのアルミフレー

ム、J-Box（端子箱）を自動的に取り外すリサイクル事業に着手することなど、企業の使命としての方針等を示されています。

「連載講義」では、公共関与型産業廃棄物処理施設について、実態調査の結果紹介と、循環経済への移行を加速させ資源循環ネットワークを支えるための新たな連携、役割・機能について論考されています。

「欧州の最新動向」では、第3回はEUが進めるデジタル製品パスポートの仕組みや、先行したオランダ企業が提供する仕組み、日本企業の取組み等について紹介されています。

最後に、ご多忙の中ご執筆いただいた皆様、記事作成にあたり編集にご協力いただいた皆様、本誌を読んでいただいた方々に心から感謝申し上げます。（広報室）

■本誌に関する連絡先：総務部広報室（e-mail:jigy@jwnet.or.jp）

<アンケートへのご協力のおお願い>

より充実した誌面作りのために、本誌の記事内容等に関する読者アンケートを当センターホームページ（以下のURL）に掲載しています。

本誌に関するご意見、ご要望を是非、お聞かせください。

URL https://www.jwnet.or.jp/info/kikansi/kikansi_anq/index.html

JW センター情報（季刊）VOL.25 NO.3

発行日：2025年10月15日発行 発行人：関莊一郎

発行所：公益財団法人 日本産業廃棄物処理振興センター

〒110-0005 東京都台東区上野三丁目24番6号
上野フロンティアタワー13階

TEL: 03-5807-5911 FAX: 03-5807-5912

<https://www.jwnet.or.jp/>

デザイン・印刷：株式会社太陽美術